



声ばかり鋭き鳥の標鳥の... 標鳥の羽根の下羽の濃む... たるあわれ

日記

三月二十五日(晴) 朝、寺の進来訪、共にうしろ... 夕方、雨ふりいでたる中を...

三月二十六日(曇) 東上の準備に日を暮す。進と二人、別れなりとてう...

三月二十七日(曇、雨) 傘さして村を出づ。山陰の叔父が寄りて、道を転じ...

三月二十八日(曇) 十時、今西を出づ、この村、四五年のわかれとはな...

三月二十九日(晴) 今日、あ、今日、五年間親し...

しみ睡みわが延岡中学にわ... 午前九時より第一回卒業式...

書簡

夫人宛 (大正十三年三月二十日) 九日坪谷より手紙... 一昨夕帰つて来た、お婆ア...

お婆さん宛 (昭和二十二年五月十二日) 下之関より... 若葉の日向が、とてもよか...

愛児 旅人氏宛 (昭和二十二年五月十二日) 下之関より... 若葉の日向が、とてもよか...



旅の牧水先生

牧水先生の歌碑は北は北海... 道から南は九州に亘る日本...

牧水先生の歌碑

- 一、沼津市(昭和四年七月... 二、長野県、小諸(昭九、...

日向は麦が黄色くなつてい... ました、水が美しく、いい...

故郷の歌、懐郷の歌

母恋しかる夕べのふるさとの桜... 春は来ぬおひに父のみひと...

童謡

泣虫毛虫 泣虫毛虫は眼々の奥... 泣虫毛虫は雨の虫...

雁が来た

ガアン ガアン とんで来た... 寒い国からとんで来た...

詩

日蔭にうたへる歌... 木かげには冷やかなる水湧けり...

牧水の姉シツさが語る思い出

牧水の生家のそばの小高い... 和田越と呼ばれる山に、明...

短歌募集

牧水祭の行事として左記... により短歌を募集しま...

後記

ひがん花が土手のあちこ... ちに咲くころになると牧...